

# 仲間とつながっていることの すばらしさを学んだ3年間

文化女子大学附属杉並中学・高等学校 **横山香夢**



横山香夢さん

られています。横山さんも「スポーツ馬鹿」なんて絶対いわれたくないと歯を食いしばってがんばり、早稲田大学への進学も手にしました。運動と勉強を見事両立させたことが将来に向けての大きな誇りです。

文大杉並では、「燃えよ、価値あるものに」という言葉のもと、生徒のやりたいことを自由にやらせる教育が実践され、部活動も運動部、文化部ともに全国レベルの部が数多くあります。しかし部活動に逃げ込んで勉強を怠ることは許されません。この厳しさの中で自分を見事に律して、横山さんは「文武」両面での成果を残し、次のステージに旅立っていきます。

文化女子大附属杉並中学・高等学校



国体の東京代表として。



「リベンジ」を果たした大分国体にて監督の齊藤先生と。



日中韓3国大会にて日本代表として。



Viva! Communications

私は三年間の部活動を通して何十試合と試合してきた。その中で心に最も強く残っている試合は、夏のインターハイでの一戦だ。私達は二回戦を勝ち進んだのだが、その試合でのユニフォームの登録ミスが問題になり、次の試合は監督がベンチに入ることができないうというパナレタイを手えられた。春の全国大会で負けたチームへのリベンジと、私達三人の引退をかけた大事な試合だった。そのために、試合前日の夜に三年生全員が監督の斎藤先生の部屋に呼ばれ、先生がベンチに入れないと聞いた時は正直動揺した。しかしその反面、逆境にあるからこそ「勝ちたい」という思いが強まった。夜のミーティングで二年生にも説明したが、「勝たない」という気持ちで一つにまとまらなかった。試合当日、先生が観客席から指示をする形です。そのために、伝言をする形です。

SCHOOL



Viva! Communications

指示を受けることになった。試合は序盤から自分たちのペースを掴み、順調な滑り出した。中盤になってリズムを崩しかけたが、コミュニケーションを取り合いながら修正していった。この時私たちが大切にしたのは、仲間に仲間を信じていることだ。試合中に、そして、「勝ちたい」という気持ちで一つになれた。私達は、リベンジを果たすことができた。また、一つになったのは私達だけではなく、先生が指示しようとしたことを、私達がコートの中でやっていたと聞いた時は驚いた。一つの同じ目標を目指して毎日辛い練習を乗り越えてきたことで、その場でコミュニケーションを取らなくても、先生としっかり通じることができた。先生としり、かり通じることができた。先生としり、かり通じることができた。

SCHOOL



チームとしての正式ユニフォームを着て。試合には先輩たちも応援に駆けつけてくれます(後列右)。



先輩や他の部員から贈られたアクセサリの一部とシューズバッグ。一生の宝ものです。

同じ学年の部員との楽しい昼食。



インター杯予選で勝った後。負けたら現役最後の試合になる所で。先輩から勝利への祈りを込めて贈られたシューズバッグを手にしています。

第11回は、東京都杉並区・文化女子大附属杉並、横山香夢さんがハンドボール部員として過ごした3年間の学びを語ってくれます。

横山さんが在籍した3年間、チームは常にインターハイ東京代表の座を確保するなど輝かしい成績を残しましたが、個人としても、1年生の春の選抜でいきなり得点王になり、3年生の時には日中韓3国大会の日本代表に選ばれるなど、すばらしい結果を残しました。そんな横山さんが充実した3

年間を振り返って思うのは、自分を成長させ、ベストのプレーを引き出してくれた監督や仲間への限りない感謝です。普段から培ってきた、お互いに通い合う心で、どんな逆境も一緒に乗り越えてきたとの自負があります。得点王になった後で陥ったつらく長いスランプも、監督やみんなのサポートで克服しました。同じ学年の部員とは昼食もいつも一緒というほど仲がよく、大事な試合の前には先輩たちから「試合に出ない者

も心一つにして勝とう」との思いを込めた自作のアクセサリやシューズバッグが選手一人一人に贈られるのがハンドボール部の伝統です。みんなから、よく「幸せそうだね」と言われる横山さんですが、もし他の学校に入っていたら今の幸せな自分はなかった。つくづく思う横山さんです。

もう一つ、学校への感謝、それは「文武両道」を厳しく課されたことです。勉強をこなしてこそその部活動だ、との方針が徹底して守

